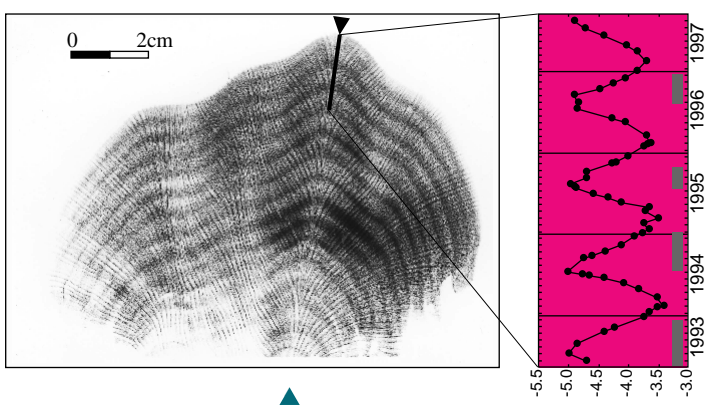




サンゴ礁研究グループ
(前頁からのつづき)

鹿児島県喜界島のサンゴ礁における調査風景。水温塩分センサーを設置しているところ。



造礁サンゴ骨格の軟X線写真を撮影すると、明瞭な年輪がみられます。また、年輪に沿って酸素同位体比を測定すると過去の水温変化が復元されます。

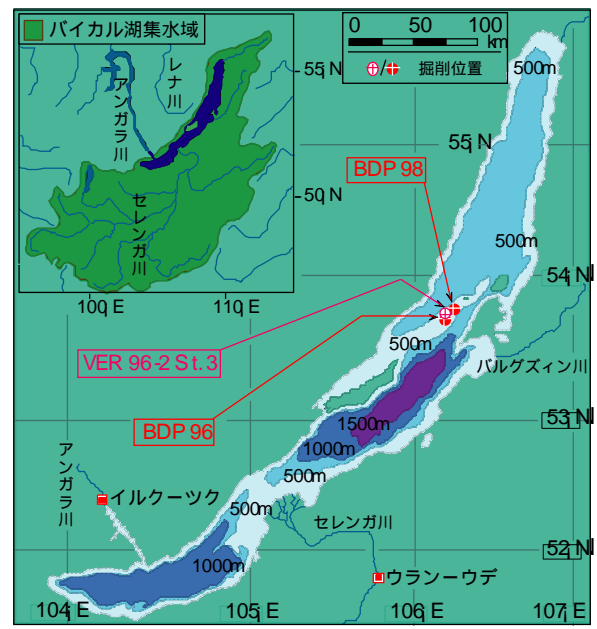
地球環境
ダイナミクス
研究グループ

バイカル湖を通してみる世界

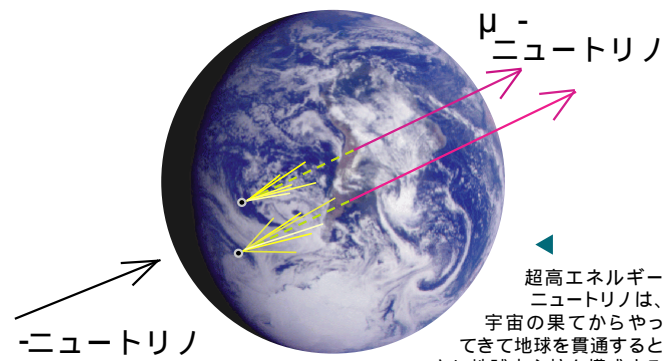


箕浦幸司 教授
M. Inoue Koji
専門：古環境学
出身：岐阜県、
岐阜県立大垣北高校

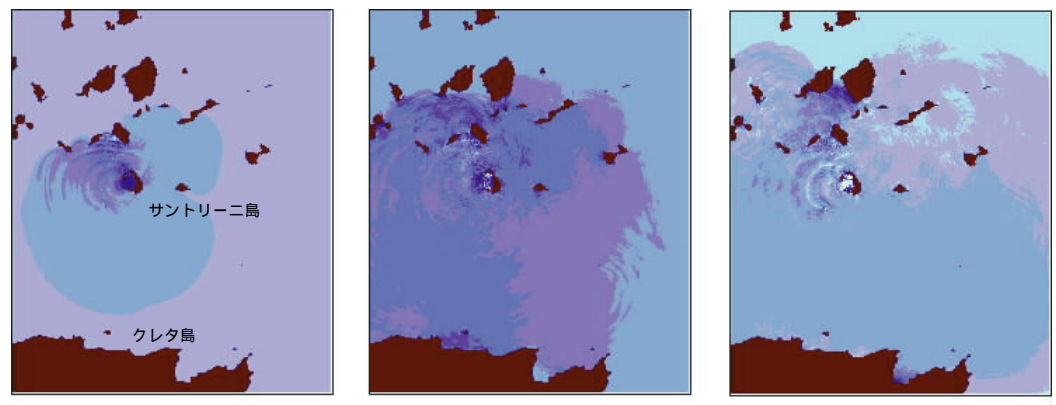
この研究グループは、日・米・露・EUが共同している国際バイカル湖掘削計画によって得られた過去数万年間の高緯度陸域の気候変動を記録している堆積物の解析から、ユーラシア大陸環境史を解明することを目的として研究を進めています。また、不純物をほとんど含まないバイカル湖水塊を利用して、宇宙の果てからやってくる超高エネルギーニュートリノをとらえ、地球中心核の物性と電磁気構造を解明することにも最近挑戦しています。少し視点は異なりますが、地震津波によって陸上に運ばれた“津波堆積物”の地質学的研究からギリシャ・ミノア文明滅亡の原因を探る研究も行われています。



バイカル湖における掘削位置と集水域の広がり - バイカル湖は、ロシア・シベリア地域に位置している。そのバイカル湖底に堆積している堆積物のコア試料を掘削した位置とバイカル湖の集水域の広がりを示している。ここで得られた堆積物コア試料の分析から過去のユーラシア大陸環境史を復元している。



鉄と衝突し、 μ ニュートリノが生成される。この衝突反応をとらえることによって、これまで地震波では捉えることができなかった地球中心核の物性と構造が解明され、ダイナモ作用による地球磁場生成の理解に貢献することになるだろう。



エーゲ海で発生したミノア津波（紀元前1500年前頃）の様子をワークステーションで数値計算し、当時の津波の伝播経路を復元した図である。

津波発生 20 分後 津波発生 40 分後 津波発生 60 分後